

---

# 狂気

橘潤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狂気

### 【コード】

N3832BA

### 【作者名】

橘 潤

### 【あらすじ】

狂気が世界を覆いつくしたとき、世界は歪みの向こうに消え去る。

## 狂気の始まり（前書き）

桜と自分、どっちが先に狂ったのかわなくて、覚えてない。  
ただ、気が付いたらどっちも狂っていただけのこと。

さあ、今年も狂気の夜がやってきた。

## 狂気の始まり

いつから狂ったのか、何が狂ったのか……全く覚えていない。

分かるのは、絶対咲かない季節に桜が咲くと、自分は狂うようになった。この桜が咲いている間は、月も狂っている。たった一晩だけの、狂気。

一度狂えば抗えない。気付けば、桜の木の頂上に立って、月を見上げて笑っている。

この桜が咲くのは年に一度。毎年同じ日に咲く。咲く度に、花弁の色は紅くなつていき、狂気が増す。

一生、自分はこの桜から逃げられないだろう。一度引越したら、近くの桜の木が狂い咲き、いつものように頂上で月を見上げて自分は笑う。

もしかしたら、狂ってるのは自分で、桜がその狂気に当てられたのかもしれない。

まあ、いい……。これはこれで気持ちがいいんだ。狂った次の日には身体が軽く、骨折していた足も治っている。こういいういことが起きるから、毎年その時期になるのが楽しみでしょうがない。次の年、癌になった。また狂い咲く季節が来て、いつものように自分も狂った。でも、その年はいつもと違った。狂気が尋常じゃなかった。自分だけではなく、周りの人も狂って……桜の木を奪い合った。殴り合いの喧嘩だったのが、鈍器や刃物まで出てきて、みんなで殺しあった。

最後に残ってたのは、木の上で月を見上げている自分と、たくさん人の血を浴びた少女。桜は大量の血を吸い取り、真っ赤になった。その桜は一晩だけでなく、朝は普通の色をしていて夜になると真っ赤に染まるようになった。

狂気に当てられた少女と、狂ったのが先なのか狂わされたのが先なのか分からない自分は、人に見えなくなつた。

ただ一つ言えることは、今日もまた、全てを狂わす夜がやってきたということ。

何人の人が、この桜の前で狂気にのまれるのか、彼女と一緒に高みの見物でもしていよう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3832ba/>

---

狂気

2012年1月10日00時53分発行